

関東学院大学 横浜・関内キャンパス開校記念シンポジウム

ヨコハマから未来へ。#4 ～これからの多文化共生を考える～

関東学院大学(本部:横浜市金沢区 学長:小山巖也)では、昨年、新たに開校した横浜・関内キャンパスにおいて、各界で活躍されている方を招いての公開討論会「ヨコハマから未来へ。～これからの多文化共生を考える～」を全4回にわたって開催しています。

横浜・山手に関東学院の源流となる横浜バプテスト神学校が創立されて今年で140年。キリスト教に根差したグローバルな視点を交えつつ、多様性を認め合い、地域(ローカル)と共生して暮らし、学び、生きる、これからのあるべき持続的社會を考えるための討論会です。

最終回となる第4回は、福島県三春町在住の僧侶であり、芥川賞作家でもある玄侑宗久氏をゲストスピーカーにお迎え。東日本大震災の体験からとらえる能登地震や、宗教家としてとらえる宗教をめぐる戦争をはじめ、現代が抱える諸問題についてお話いただきます。ヨコハマの未来へつなぐ、関東学院大学の知のムーブメントにご注目ください。

- 主催 : 関東学院大学
- 開催日時 : 2024年3月15日(金) 開場 18時30分 開演 19時(入場無料)
- 開催場所 : 関東学院大学 横浜・関内キャンパス テンネー記念ホール
(横浜市中区万代町 1-1 JR・横浜市営地下鉄 関内駅より徒歩 2 分)

シンポジウム参加者略歴

・玄侑宗久 : 作家/福聚寺住職<ゲスト>

福島県三春町生まれ。慶応義塾大学中国文学科卒。さまざまな仕事を経験した後、京都天龍寺専門道場に入門。2001年「中陰の花」で第125回芥川賞を受賞する。2008年には福聚寺第35世住職となり、2011年東日本大震災被災青少年支援のための「たまきはる福島基金」理事長に就任する。2014年「光の山」で、平成25年度(第64回)芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。



・富岡幸一郎 <メインスピーカー>

関東学院大学国際文化学部教授。研究テーマはキリスト教神学と日本の近現代文学・思想・宗教。内村鑑三、カール・バルト、戦後文学、川端康成、三島由紀夫らを題材として著作がある。1979年「意識の暗室 埴谷雄高と三島由紀夫」で、第22回群像新人文賞評論部門を、21歳で受賞。そのキャリアを生かし、文芸評論家として多数の作品も発表。神奈川近代文学館理事。



・ロドリグ・マイヨール <メインスピーカー>

パリ出身。NHK国際放送局番組ディレクターで、新ソルボンヌ大学コミュニケーション情報学博士。フランス語、英語、スペイン語、日本語を操り、ドキュメンタリー制作では、日本のマイノリティにフォーカス。外国人労働者や入国管理制度の課題に焦点を当て、取材と研究を重ねている。



総合司会 : 北島美穂 (FMヨコハマ毎週日曜日「Sunset Breeze」パーソナリティ)



*リリースに関するお問合せ先 関東学院大学 社会連携センター TEL:045-786-7744